

■ 市民アンケート調査結果（抜粋）

◆ 調査の概要

▼ 調査の目的

- 市民の住宅や住環境に対する意識や意向を把握し、益田市住生活基本計画の策定及び今後の住まいやまちづくり施策を検討するための基礎資料とする

▼ 調査の対象

- 益田市内に住む 20 歳以上の市民 2,058 名
(年代及び地域のバランスを考慮して無作為抽出)

▼ 調査の時期

- 平成 30 年 9 月 20 日～10 月 12 日

▼ 調査方法

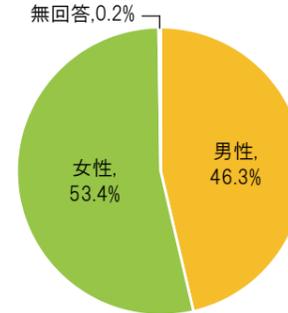
- 郵送により配布・回収

▼ 回収結果

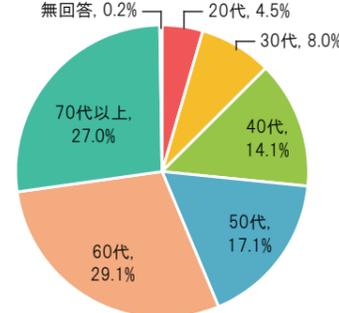
- 回収数 1,245 通（回答率:60.5%）

◆ 回答者の属性（n=1,245）

▼ 性別



▼ 年代



▼ 居住地

地区名	割合 (%)	地区名	割合 (%)
益田	21.3	二条	0.8
吉田	21.6	美濃	1.4
高津	15.3	小野	3.3
安田	7.2	中西	3.9
鎌手	3.1	東仙道	1.6
種	1.0	都茂	2.1
北仙道	1.0	二川	1.0
豊川	1.7	匹見上	1.6
真砂	1.0	匹見下	1.2
西益田	7.8	道川	1.0
		無回答	1.1

◆ 調査結果（空家に関する設問）

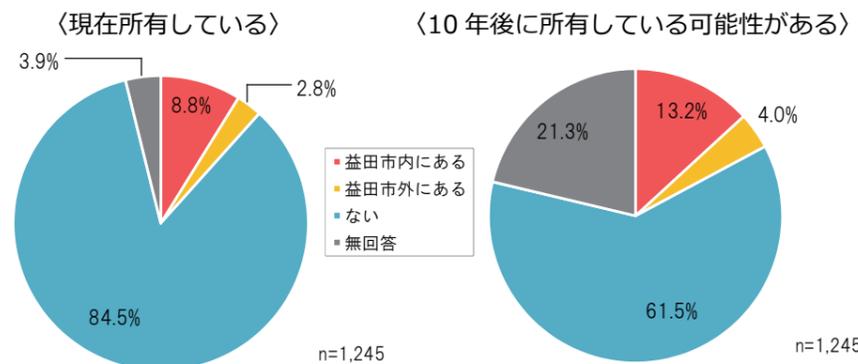
▼ 現在と 10 年後の所有状況及び空家の活用など方針について

- 回答者本人又はその家族が空家を所有している割合は 11.6%。10 年後に所有している可能性があるのは 17.2%であり、空家は今後さらに増加する可能性がある。
- 現在の空家及び将来の空家、どちらに対しても「取り壊す」の意向が最も多い。
- 10 年後の空家については、「売却」や「残しておきたい」の割合が、現在の空家の方針と比較して高くなっている。

▼ 現在の空家について

- 4 割が「10 年以上」空家となっている。「3 年未満」の空家は 2 割。
- 困っていることとして、4 割が「修繕や取り壊しの費用が不足」を、2 割が「固定資産税が高くなる」をあげており、経済的な問題が多い。
- 市内に空家がある人の 4 人に 1 人が「どうしたらよいかわからない」と回答している。
- 【空き家バンク】の名前は 8 割が知っているが、内容を知っているのは 3 割弱にとどまる。

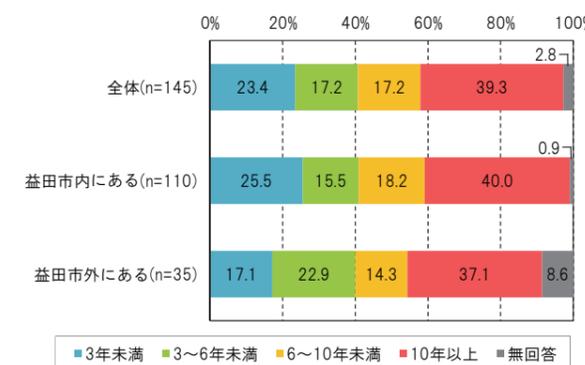
■ 空家の所有状況



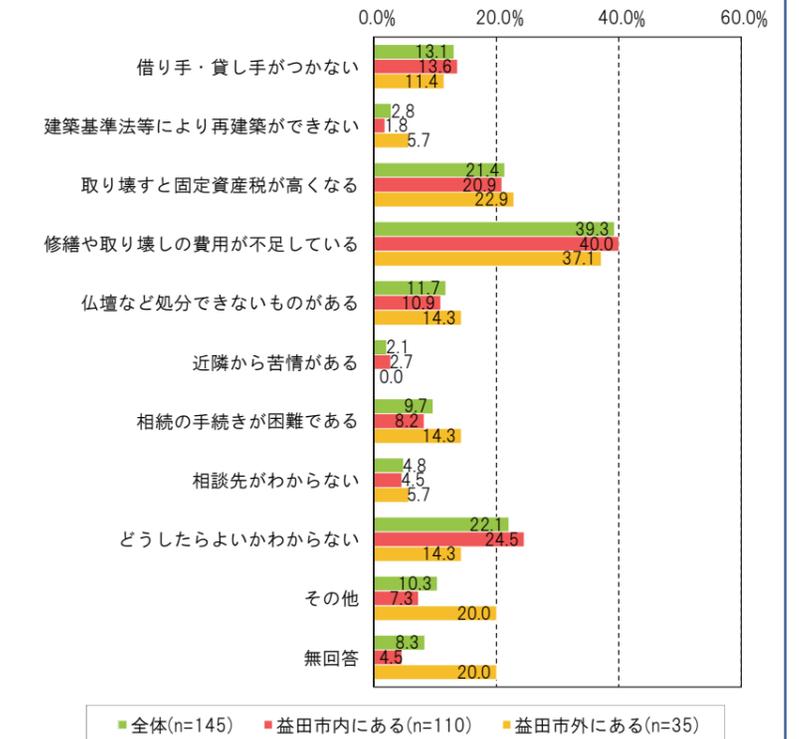
■ 空家の活用などの方針



■ 所有している空家が空家となっている期間



■ 所有している空家について困っていること（複数回答）



■ 空き家バンクの認知度

